

事務事業名		防災対策用備蓄事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	1 地域の特色を活かした快適なまちづくり					事業区分	担当組織	担当部	行政経営部	担当課	危機管理課
	政策	1 安心して安全に暮らせるまちづくり						担当係	防災係	担当課長名	高松敏行	
	施策	1 消防・防災体制の強化						新規事業・継続事業	継続事業			
	基本事業	2 防災・危機管理体制の整備						実施計画事業・一般事業	実施計画事業			
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名	市単独事業・国県補助事業	市単独事業				
	12273	一般	9	1	4	防災対策用備蓄事業	任意的事業・義務的事業	任意的事業				
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H8年度～ 年度		根拠法令 条例等	災害対策基本法 佐野市地域防災計画	実施方法	直営				
							事業分類	その他市民に対する事業				
							リーディングプロジェクト	該当なし				
							市長マニフェスト	1-1				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
佐野市地域防災計画では、大規模災害の発生した直後の市民生活を確保するため、「食料、生活必需品の備蓄に努め、災害発生後3日間に必要な物資を確保できる体制を整備するように努めること」となっており、この計画に基づき、備蓄基準数量を確保する事業であり、さらに避難所ごとの確保を目指す事業。 ※基準数量とは、避難想定人口7165人×3食(水は3ℓ)×1日である。			・植野地区公民館に防災倉庫を設置 ・備蓄用食料・飲料水等購入							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			購入した備蓄食料数	食分	4,400	4,400	4,400			
			購入した備蓄飲料数	ℓ	4,400	4,400	4,400			
			備蓄場所(防災倉庫等)	箇所	17	18	18			
②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
・市民 ・避難場所			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			市民	人	123,182	122,582	121,522			
			避難場所	箇所	114	114	114			
③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
目的 ・災害発生から直後から1日間分の基準量の食料、飲料水を確保することにより、防災力の向上を図る。 ・多くの避難所に防災倉庫等を設置し、備蓄品を配備して、避難所の実質的な運用を確立する。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			基準数量に対する備蓄の割合(食料)	%	100	113	150			
			基準数量に対する備蓄の割合(飲料水)	%	106	113	150			
			防災倉庫整備率(備蓄数/20箇所)	%	85	90	90			
④結果(どのような結果に結びつきますか?)										
・自然災害、特殊災害、大規模事件に対応できる体制を整備する。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			飲食料等備蓄箇所数	箇所	17	18	18	19	20	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円	4,100	2,676	1,950					
	一般財源	千円	84	528	0					
	事業費計(A)	千円	4,184	3,204	1,950	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			消耗品	1,937	消耗品	1,604	消耗品	1,948		
			役務費	2	役務費	2	役務費	2		
備品購入費			2,246	備品購入費	1,598					
人件費	人	1	1	1						
のべ業務時間	時間	320	320	320						
人件費計(B)	千円	1,245	1,261	1,261	0	0				
トータルコスト(A)+(B)	千円	5,429	4,465	3,211	0	0				

事務事業名	防災対策用備蓄事業	担当部	行政経営部	担当課	危機管理課	担当係	防災係
-------	-----------	-----	-------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災で、避難所における食料や飲料水が不足したという教訓を踏まえ、災害発生後2日間の食料を備蓄することで、災害発生初期の対応が可能と考え平成7年度から開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	地域防災計画では、避難想定人口7,165人の1日分を佐野市単独で備蓄し、関係機関との協定による流通備蓄で2日分を確保することとしている。 近年、備蓄品の多様化が進んでいる。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	東日本大震災後に、議会や市民から災害備蓄の重要性についての声が多くなった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 災害時に住居等を失い避難所生活を余議なくされる可能性は全ての市民にあり、その際の食料、飲料水の確保は必要不可欠のものである。それを平常時に備蓄しておくことは、すなわち市民の安全確保、安心確保につながり、「安心して安全に暮らせるまちづくり」という政策体系に直結する。
	市が行わなければならない	理由・改善案 災害発生に対して普段から準備をし、避難所に非常時食料の備蓄を行って市民の安全を確保することは行政の責務であり、民間委託等は考えられない。
	妥当である	理由・改善案 本事業の対象は、災害がいつどこで発生するかわからないことから、市民全てである。また、非常時食料等の確保は地域防災力の向上のためには必要不可欠であり、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案 現在の備蓄率は、基準値の100%以上であり、備蓄率について向上余地というものはない。防災倉庫の配備についても、予算上1年に1箇所が限度であり、「安かろう悪かろう」では備蓄品が傷んでしまうことから向上余地はない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名
	類似事務事業はない	理由・改善案 *類似事務事業があれば、名称を記入
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 備蓄品について、保存期限のできるだけ長いものを購入することにより、相対的に期限切れ備蓄品の補充購入量が削減されると考えられるが、その分単価が割高になることから、削減余地は今のところない。人権費については、係員1名で行っているが、備蓄品の選定、納品等事務煩雑で、成果を下げずに人権費を削減する余地は考えられない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 いつどこで災害が発生するかわからず、全市民が対象であるから、改めて受益者負担を求める必要はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	災害時に備えなければならないので、本事業を休止・終了することはできない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			